

人権・同和問題に関する市民意識調査報告書

概要版

倉吉市では、「お互いを認め、尊重し合える人権文化のまち」の実現に向けて、平成8年（1996年）に「倉吉市あらゆる差別をなくする総合計画」を策定し、あらゆる差別の解消に向けた諸施策を積極的に推進しています。

この調査の結果から明らかにされた市民意識の現状とその課題を踏まえて、市民一人一人の人権が尊重された住みよいまちづくりに向け、人権教育・啓発を中心とした人権施策に取り組んでいきます。

調査の概要

- 調査目的** 人権・同和問題に対する正しい理解と認識を深め、部落差別をはじめとするあらゆる差別をなくしていくため、倉吉市における市民のみなさまの人権に対する意識を把握し、その結果と課題を明らかにし、今後のより効果的な啓発活動の取り組みの基礎資料とするものです。
- 実施主体** 倉吉市
- 調査期間** 平成24年（2012年）9月1日～30日
- 調査対象** 住民基本台帳から、16歳から79歳の市民の方を、男女別、年代別、地域別に抽出し、2,000人を対象とした。
- 調査方法** ①調査対象者に調査票を郵送し、返信用封筒での回答とした。
②調査票の回答は無記名とした。
- 調査票回収率** 40.1%（有効回答票802／調査票配布数2,000）
- 調査結果の集計及び分析**
 - ①回収した調査票の集計は人権政策課が行った。
 - ②①の集計結果を基に、「倉吉市人権・同和問題市民意識調査検討委員会」で審議、分析した。

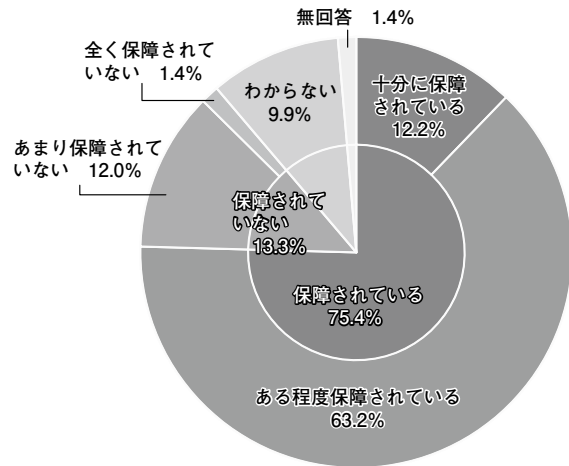
※調査票は、全部で31の質問がありますが、今回の概要版では、抜粋してご紹介します。

1 暮らしや社会における私たちの人権について、あなたのお考えをお聞かせください。

自分の人権について

質問1 現在の日本では、あなたの人権は十分に保障されていると思いますか。あてはまるもの一つに○をつけてください。

1	十分に保障されている	98	12.2%
2	ある程度保障されている	507	63.2%
3	あまり保障されていない	96	12.0%
4	全く保障されていない	11	1.4%
5	わからない	79	9.9%
	無回答	11	1.4%
	計	802	100.0%



○ 人権は保障されていると思うかどうかについて、

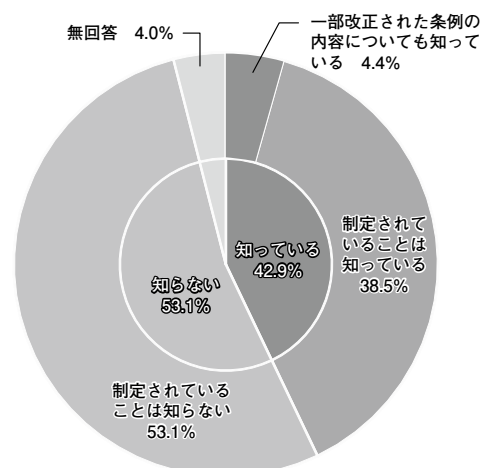
「十分に保障されている」、「ある程度保障されている」は合わせて75.4%と7割を超える人が人権は保障されていると考えている。また、「あまり保障されていない」、「全く保障されていない」は合わせて13.4%であった。

前回（平成11年度）の数値では、「人権が尊重されている」と感じる割合は22.8%、「人権が尊重されていない」と感じる割合は59.6%と高い数値を示している。前回の調査と比較すると、自分の人権が保障されていると感じる人が増加している。

13 「倉吉市部落差別撤廃とあらゆる差別をなくする条例」についてお聞きします。

質問31 あなたは、倉吉市が「倉吉市部落差別撤廃とあらゆる差別をなくする条例」（平成6年制定、平成22年3月一部改正）を制定していることを知っていますか。次の中から一つに○をつけてください。

1	一部改正された条例の内容についても知っている	35	4.4%
2	制定されていることは知っている	309	38.5%
3	制定されていることは知らない	426	53.1%
	無回答	32	4.0%
	計	802	100.0%

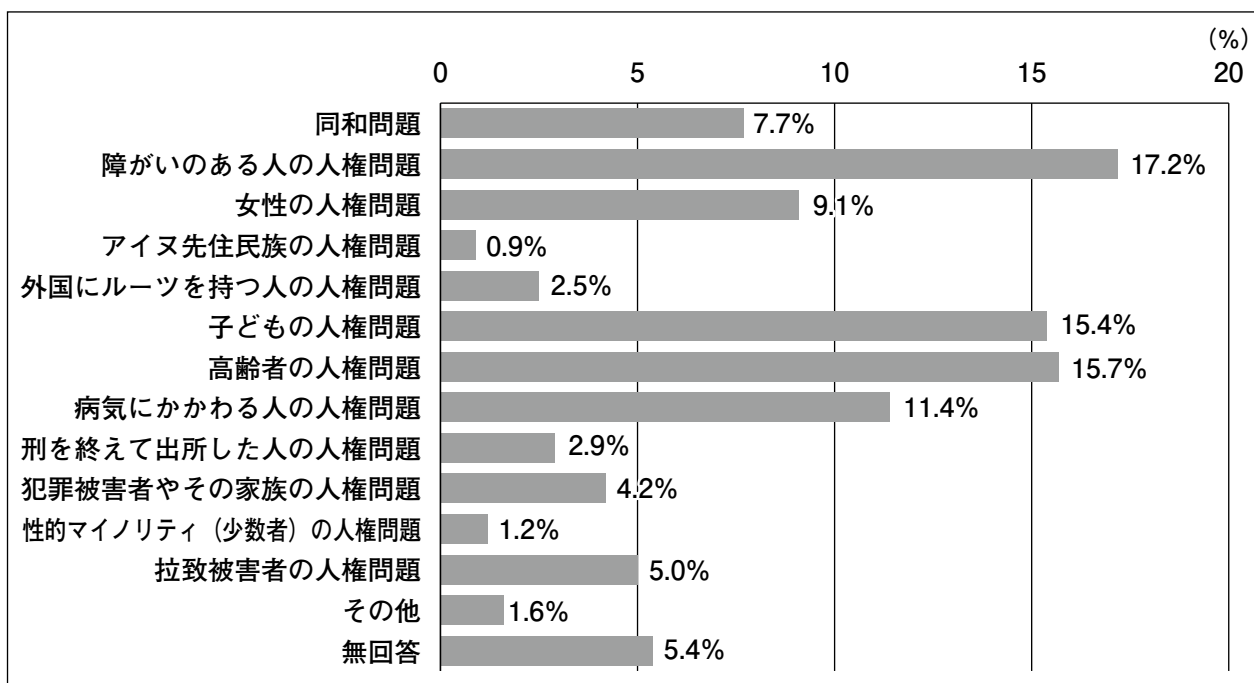


○ 「倉吉市部落差別撤廃とあらゆる差別をなくする条例」の制定を「知っている」人は合わせて42.9%で、そのうち内容について知っている人は4.4%と少数である。「制定されていることは知らない」は53.1%と最も高い。

学習したい人権問題について

質問10 同和問題をはじめさまざまな人権問題について理解を深めるため、あなたが学習したい人権問題について、あてはまるものに○をつけてください。(○は3つ以内)

1	同和問題	126	7.7%
2	障がいのある人の人権問題	282	17.2%
3	女性の人権問題	149	9.1%
4	アイヌ先住民族の人権問題	14	0.9%
5	外国にルーツを持つ人の人権問題	41	2.5%
6	子どもの人権問題	253	15.4%
7	高齢者の人権問題	258	15.7%
8	病気にかかわる人の人権問題	187	11.4%
9	刑を終えて出所した人の人権問題	48	2.9%
10	犯罪被害者やその家族の人権問題	69	4.2%
11	性的マイノリティ（少数者）の人権問題	20	1.2%
12	拉致被害者の人権問題	83	5.0%
13	その他	26	1.6%
	無回答	88	5.4%
	計	1644	100.0%

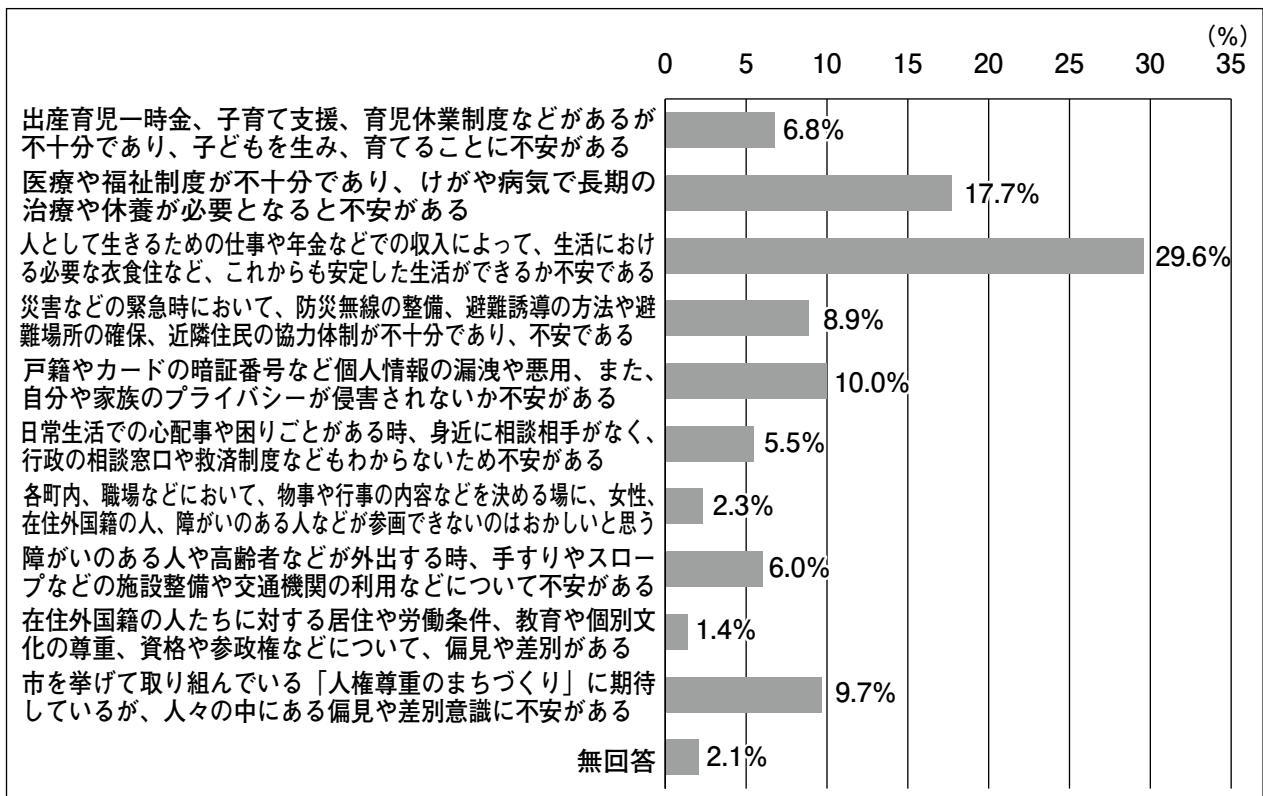


○ 学習したい人権問題については、「障がいのある人の人権問題」(17.2%)が最も高く、次いで「高齢者の人権問題」(15.7%)、「子どもの人権問題」(15.4%)、そして「病気にかかわる人の人権問題」(11.4%)の順に高くなっている。

基本的人権について

質問2 人権は、すべての人が尊重され幸せに生きるために保障されている権利です。あなたの暮らしの中で、身近に感じている人権課題はどれですか。あなたの考えに近いものに○をつけてください。(○は3つ以内)

1	出産育児一時金、子育て支援、育児休業制度などがあるが不十分であり、子どもを生み、育てることに不安がある	124	6.8%
2	医療や福祉制度が不十分であり、けがや病気で長期の治療や休養が必要となると不安がある	323	17.7%
3	人として生きるための仕事や年金などでの収入によって、生活における必要な衣食住など、これからも安定した生活ができるか不安である	540	29.6%
4	災害などの緊急時において、防災無線の整備、避難誘導の方法や避難場所の確保、近隣住民の協力体制が不十分であり、不安である	162	8.9%
5	戸籍やカードの暗証番号など個人情報の漏洩や悪用、また、自分や家族のプライバシーが侵害されないか不安がある	182	10.0%
6	日常生活での心配事や困りごとがある時、身近に相談相手がなく、行政の相談窓口や救済制度などもわからないため不安がある	101	5.5%
7	各町内、職場などにおいて、物事や行事の内容などを決める場に、女性、在住外国籍の人、障がいのある人などが参画できないのはおかしいと思う	42	2.3%
8	障がいのある人や高齢者などが外出する時、手すりやスロープなどの施設整備や交通機関の利用などについて不安がある	110	6.0%
9	在住外国籍の人たちに対する居住や労働条件、教育や個別文化の尊重、資格や参政権などについて、偏見や差別がある	26	1.4%
10	市を挙げて取り組んでいる「人権尊重のまちづくり」に期待しているが、人々の中にある偏見や差別意識に不安がある	177	9.7%
	無回答	39	2.1%
計		1826	100.0%



○ 暮らしの中で、身近に感じている人権課題については、「安定した生活ができるか不安」(29.6%)が突出して高く、次いで「医療や福祉制度が不十分」(17.7%)、「個人情報の漏洩や悪用」(10.0%)、「偏見や差別意識の存在」(9.7%)、「災害などの緊急時」(8.9%)の順に高い。「女性や障がい者などの社会参画」(2.3%)、「在住外国籍の人の人権」(1.4%)は極めて低い。

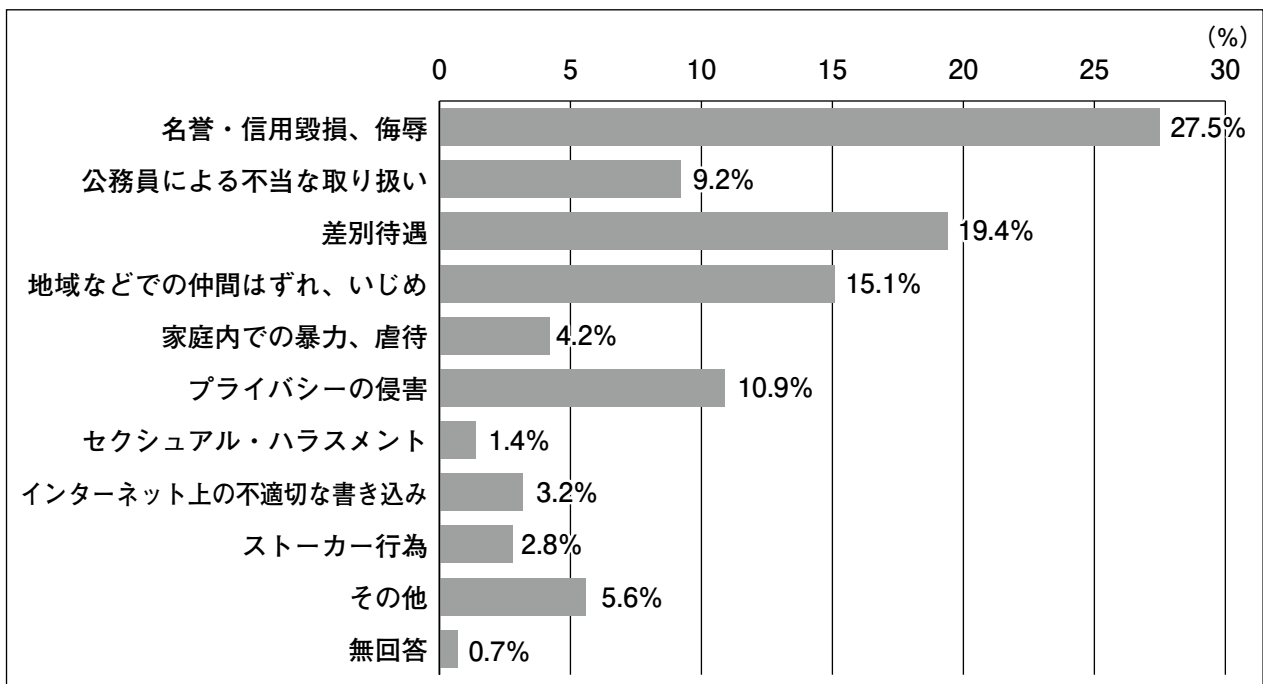
差別と人権侵害について

質問3-① 日常生活の中で、あなた自身が差別や人権侵害を受けたことがありますか。あてはまるもの一つに○をつけてください。

1	たびたびある	} → 質問3-②、質問3-③へ
2	たまにある	
3	ほとんどない	} → 質問4へ
4	まったくない	
5	わからない	

質問3-② 問3-①で1又は2と回答された方にお聞きします。特に、差別や人権侵害を受けたのはどのようなことですか。あてはまるものに○をつけてください。(○はいくつでも)

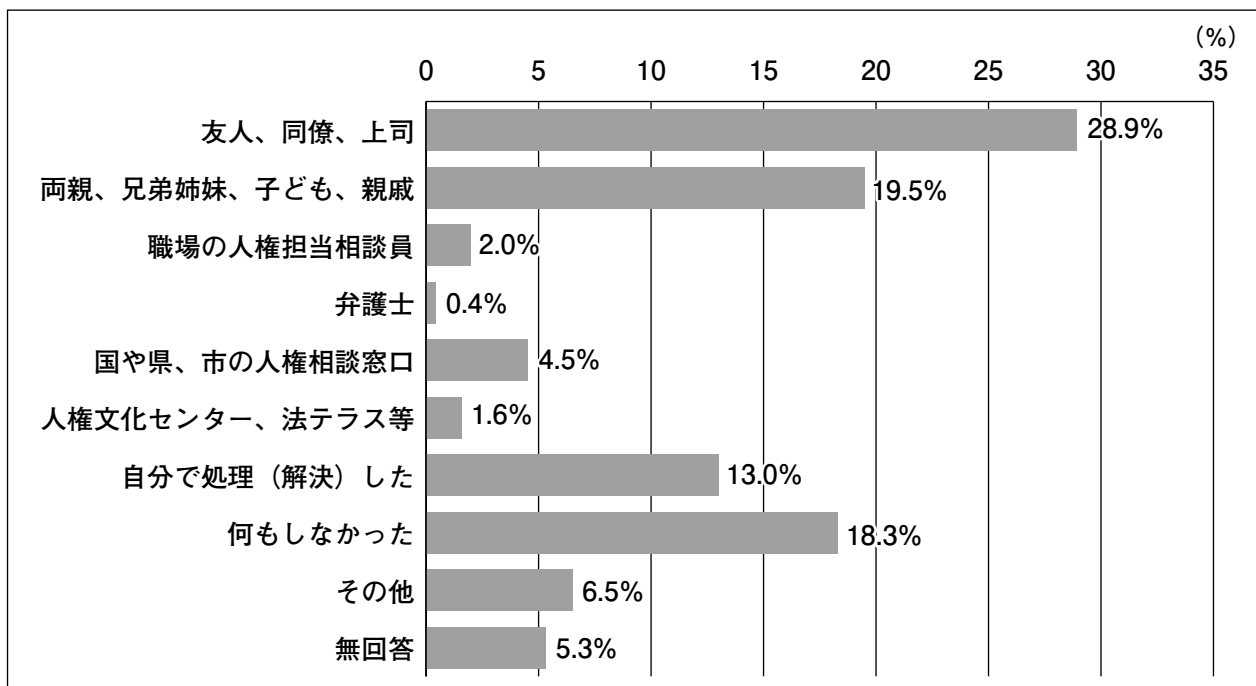
1	名誉・信用毀損、侮辱	78	27.5%
2	公務員による不当な取り扱い	26	9.2%
3	差別待遇	55	19.4%
4	地域などでの仲間はずれ、いじめ	43	15.1%
5	家庭内での暴力、虐待	12	4.2%
6	プライバシーの侵害	31	10.9%
7	セクシュアル・ハラスメント	4	1.4%
8	インターネット上の不適切な書き込み	9	3.2%
9	ストーカー行為	8	2.8%
10	その他	16	5.6%
	無回答	2	0.7%
	計	284	100.0%



○ 質問3-①で「たびたびある」、「たまにある」と回答した人の差別や人権侵害の種類について、「名誉・信用毀損、侮辱」(27.5%)が最も高く、次いで「差別待遇」(19.4%)となっている。

質問3-③ 同じく問3-①で1又は2と回答された方にお聞きします。差別や人権侵害を受けたとき、どなたかへ相談されましたか。(○はいくつでも)

1	友人、同僚、上司	71	28.9%
2	両親、兄弟姉妹、子ども、親戚	48	19.5%
3	職場の人権担当相談員	5	2.0%
4	弁護士	1	0.4%
5	国や県、市の人権相談窓口	11	4.5%
6	人権文化センター、法テラス等	4	1.6%
7	自分で処理（解決）した	32	13.0%
8	何もしなかった	45	18.3%
9	その他	16	6.5%
	無回答	13	5.3%
	計	246	100.0%

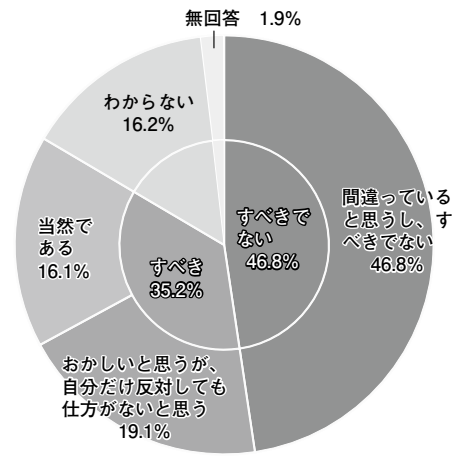


○ 質問3-①で「たびたびある」「たまにある」と回答した人の相談相手について、「友人、同僚、上司」(28.9%)が最も高く、次いで「両親、兄弟姉妹、子ども、親戚」(19.5%)、「何もしなかった」(18.3%)が高くなっている。「職場の人権担当相談員」、「弁護士」、「国や県、市の人権相談窓口」、「人権文化センター、法テラス等」は合わせても8.5%と極めて低い。

身元調査（結婚）について

質問6 結婚のとき、家柄・財産、親の仕事や社会的地位などの身元調査することを、あなたはどのように思いますか。あなたの考えに近いもの一つに○をつけてください。

1	当然である	129	16.1%
2	おかしいと思うが、自分だけ反対しても仕方がないと思う	153	19.1%
3	間違っていると思うし、すべきでない	375	46.8%
4	わからない	130	16.2%
	無回答	15	1.9%
	計	802	100.0%



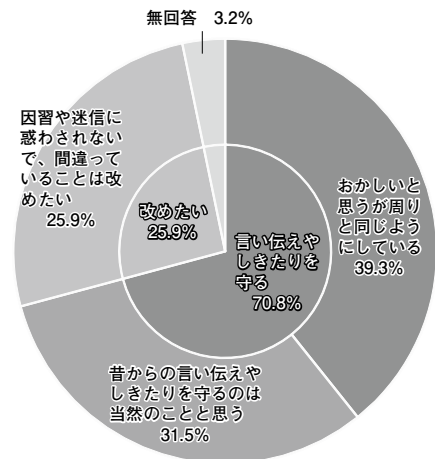
○ 身元調査については「すべきではない」が最も高いが、46.8%と半数に満たない。

前回（平成11年度）の数値では、「すべきでない」と感じる割合は61.6%、「すべき」と感じる割合は35.7%、「不明」は2.8%であった。「すべきでない」と「すべきである・わからない」の回答が、それぞれ約半数ずつであり、「身元調査をすべきである」との考えが多数あることが伺える。

因習・迷信について

質問5 あなたは、「結婚式は大安の日にする」とか、「葬式は友引の日にはならない」というような因習や迷信をどう思いますか。あなたの考えに近いもの一つに○をつけてください。

1	昔からの言い伝えやしきたりを守るのは当然のことと思う	253	31.5%
2	おかしいと思うが周りと同じようにしている	315	39.3%
3	因習や迷信に惑わされないで、間違っていることは改めたい	208	25.9%
	無回答	26	3.2%
	計	802	100.0%



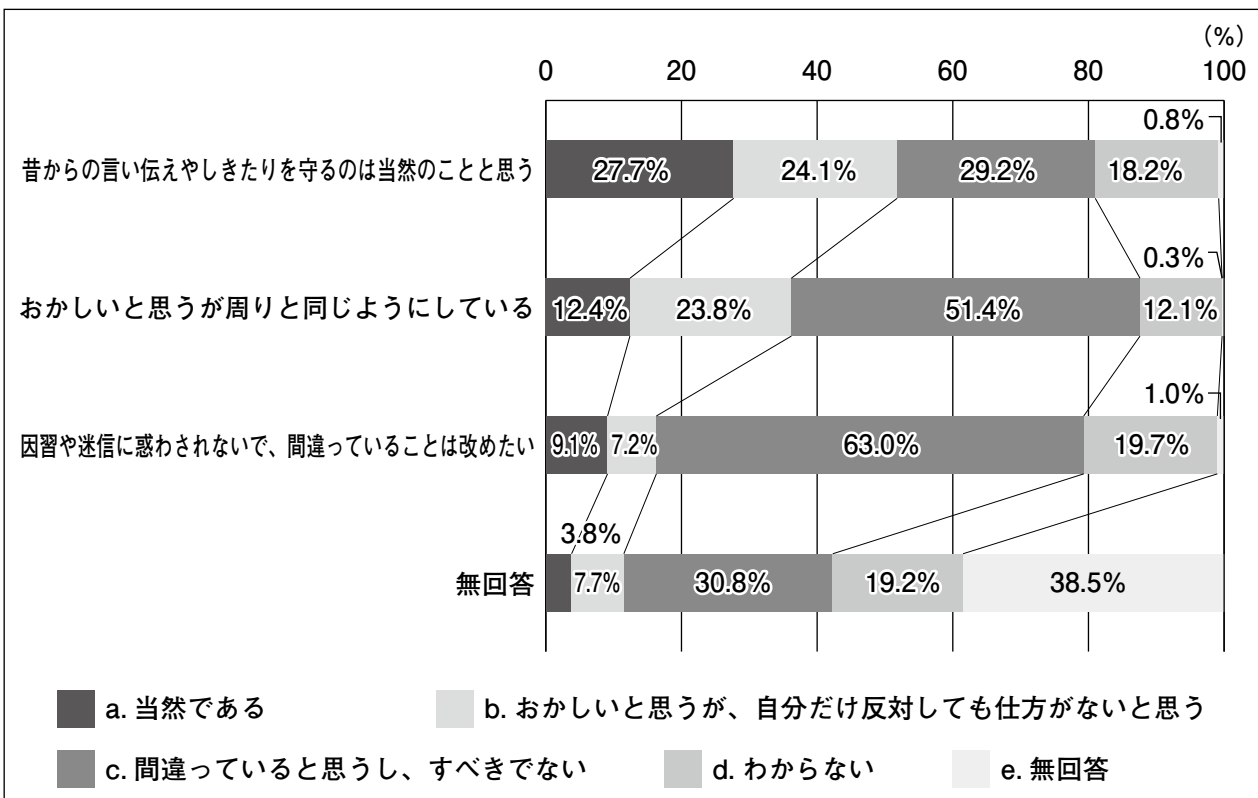
○ 因習や迷信については、「しきたりを守ることは当然のことと思う」（31.5%）、「周りと同じようにしている」（39.3%）は合わせて70.8%と7割の人が因習や迷信を肯定、容認している。「間違っていることは改めたい」とする回答は25.9%である。

前回（平成11年度）の数値は、「しきたりを守る」人の割合は76.3%、「改めたい」人の割合は19.0%であった。「昔からの言い伝えやしきたりを守る」と答えた人の割合は、平成11年度より5.5ポイント少なくなっているが全体の約7割を占めており、六曜への配慮を肯定する冠婚葬祭への因習的態度は依然として強い傾向にあるといえる。

質問6（結婚のとき身元調査をする）と質問5（因習や迷信）との関連

身元調査の是非について、因習や迷信に対する考え方の違いによる意識や態度の傾向をみた。

選択項目	総計		a.当然である		b.おかしいと思うが、自分だけ反対しても仕方がないと思う		c.間違っていると思うし、すべきでない		d.わからない		e.無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
昔からの言い伝えやしきたりを守るのは当然のことと思う	253	100.0%	70	27.7%	61	24.1%	74	29.2%	46	18.2%	2	0.8%
おかしいと思うが周りと同じようにしている	315	100.0%	39	12.4%	75	23.8%	162	51.4%	38	12.1%	1	0.3%
因習や迷信に惑わされないうで、間違っていることは改めたい	208	100.0%	19	9.1%	15	7.2%	131	63.0%	41	19.7%	2	1.0%
無回答	26	100.0%	1	3.8%	2	7.7%	8	30.8%	5	19.2%	10	38.5%
合計	802	100.0%	129	16.1%	153	19.1%	375	46.8%	130	16.2%	15	1.9%

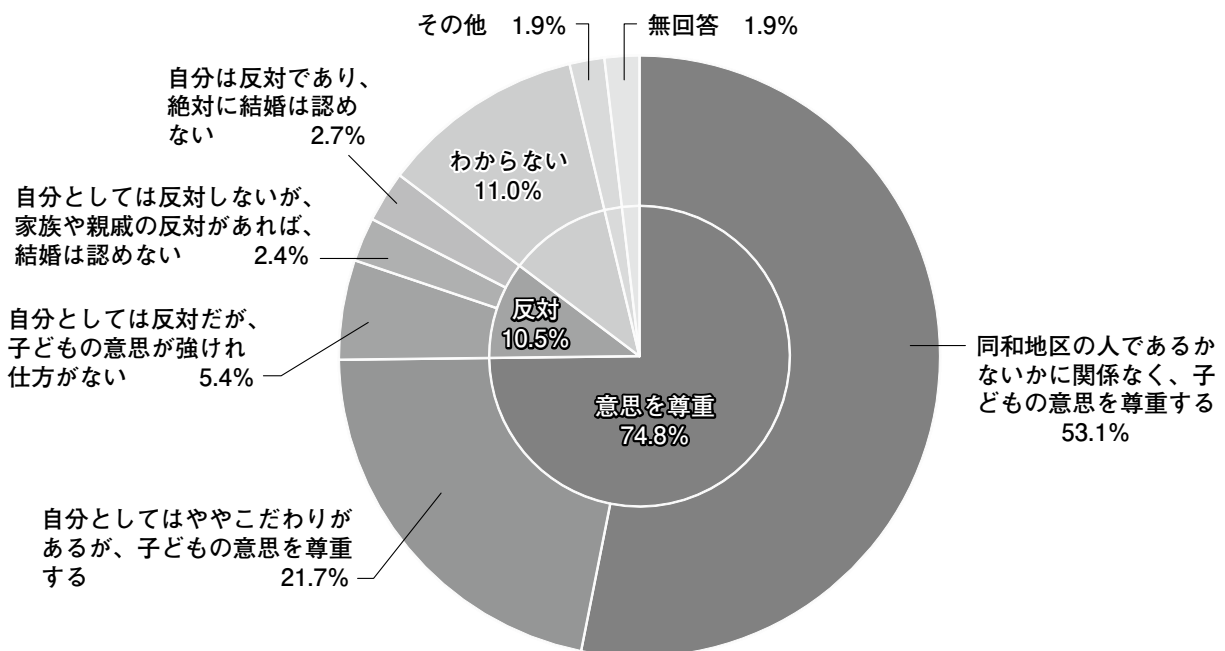


○ 結婚のとき、身元調査を「c.すべきでない」とする人は、「因習や迷信に惑わされないうで、間違っていることは改めたい」(63%)とする回答が最も高く、「しきたりを守るのは当然のことと思う」(29.2%)と肯定する人の約2倍となっている。一方、身元調査は「a.当然である」、「b.自分だけ反対しても仕方ないと思う」と身元調査を肯定、容認する人は、因習や迷信を「しきたりを守るのは当然のことと思う」とする回答が最も高く、「因習や迷信に惑わされないうで、間違っていることは改めたい」が最も低く、相関が認められる。六曜に縛られた生活態度と身元調査の慣行は、ともに世間体という差別意識として支え合っているといえる。

結婚について

質問16 あなたに未婚のお子さんがあると仮定して、そのお子さんが同和地区出身の人と結婚しようとする場合、あなたはどのように対応しますか。次の中からあてはまるもの一つに○をつけてください。

1	同和地区の人であるかないかに関係なく、子どもの意思を尊重する	426	53.1%
2	自分としてはややこだわりがあるが、子どもの意思を尊重する	174	21.7%
3	自分としては反対だが、子どもの意思が強ければ仕方がない	43	5.4%
4	自分としては反対しないが、家族や親戚の反対があれば、結婚は認めない	19	2.4%
5	自分は反対であり、絶対に結婚は認めない	22	2.7%
6	わからない	88	11.0%
7	その他	15	1.9%
	無回答	15	1.9%
	計	802	100.0%



○ 「同和地区の人であるかないかに関係なく、子どもの意思を尊重する」(53.1%)が最も高く、「自分としてはややこだわりがあるが、子どもの意思を尊重する」(21.7%)と合わせると74.8%の人が子どもの意思を尊重するとしている。一方、「自分としては反対しないが、家族や親戚の反対があれば、結婚は認めない」(2.4%)、「自分は反対であり、絶対に結婚は認めない」(2.7%)合わせて5.1%が結婚は認めないとしている。なお、「わからない」が11.0%ある。

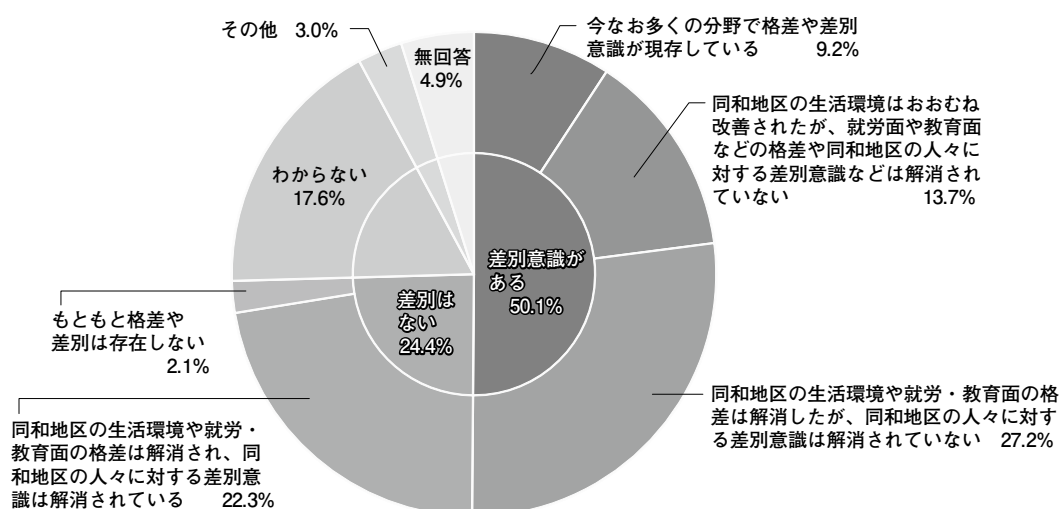
前回(平成11年度)の数値では、「子どもの意思を尊重する」人の割合は65.5%、「結婚を反対する」人の割合は31.3%、「絶対に認めない」は1.6%、「わからない」は3.3%であった。「子どもの意思を尊重する」と答えた人の割合が約75%と高くなっているが、約1割の人は「結婚に反対・認めない」と回答しており、結婚に関する差別意識が存在している。

3 同和問題について、あなたのお考えをお聞かせください。

部落差別について

質問13 部落差別の現状について、あなたはどのようにお考えですか。次の中から最もあなたの考えに近いもの一つに○をつけてください。

1	同和地区の生活環境や就労・教育面の格差は解消され、同和地区の人々に対する差別意識は解消されている	179	22.3%
2	同和地区の生活環境や就労・教育面の格差は解消したが、同和地区の人々に対する差別意識は解消されていない	218	27.2%
3	同和地区の生活環境はおおむね改善されたが、就労面や教育面などの格差や同和地区の人々に対する差別意識などは解消されていない	110	13.7%
4	今なお多くの分野で格差や差別意識が現存している	74	9.2%
5	もともと格差や差別は存在しない	17	2.1%
6	わからない	141	17.6%
7	その他	24	3.0%
	無回答	39	4.9%
	計	802	100.0%



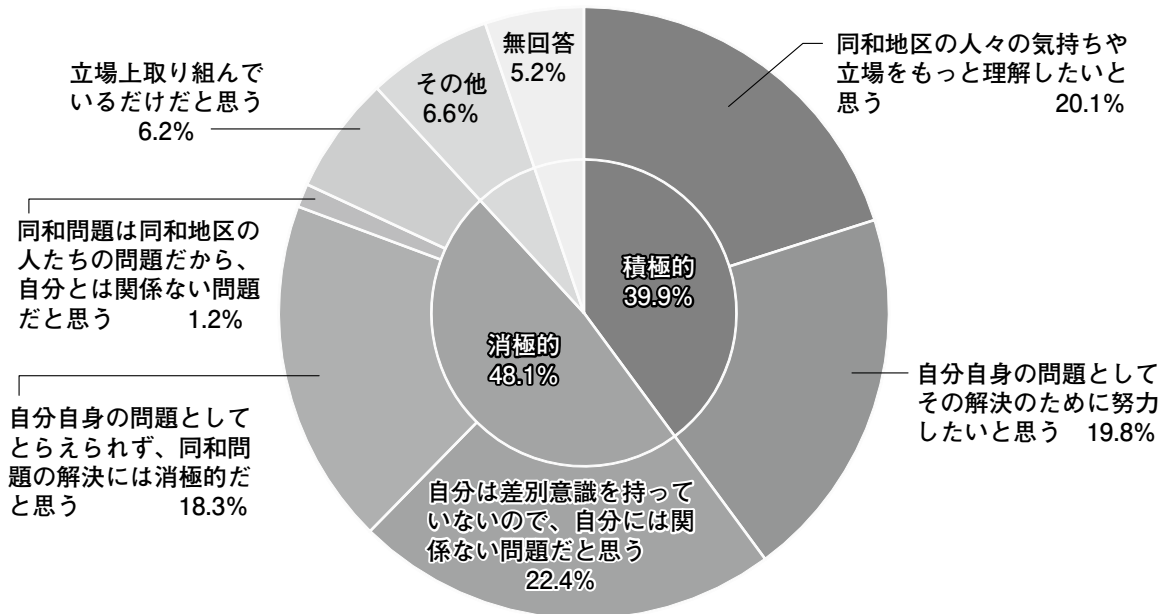
○ 部落差別の現状については「同和地区の生活環境や就労・教育面の格差は解消したが、同和地区の人々に対する差別意識は解消されていない」が27.2%と最も高く、「同和地区の生活環境はおおむね改善されたが、就労面や教育面などの格差や同和地区の人々に対する差別意識などは解消されていない」(13.7%)、「今なお多くの分野で格差や差別意識が現存している」(9.2%)、合わせて50.1%の人が、部落差別が今もあり差別意識が解消されていないと考えている。一方、「同和地区の生活環境や就労・教育面の格差は解消され、同和地区の人々に対する差別意識は解消されている」(22.3%)、「もともと格差や差別は存在しない」(2.1%)、合わせて24.4%の人が部落差別はないと考えている。なお「わからない」とする回答が17.6%あった。約5割の人が「差別意識が存在している」と感じているが、「差別はない・わからない・その他・無回答」と答えた人を合わせると49.9%あり、約半数の人に、今も存在する部落差別の現実が理解されていない。

前回(平成11年度)の数値では、「結婚面」で差別があると思うが72.2%、「教育面」で差別があると思うが20.3%、「就労面」で差別があると思うが35.7%、「差別意識」が存在していると思うが64.5%となっている。

自分とのかかわりについて

質問14 同和問題とあなた自身とのかかわりについて、あなたのお考えをお聞きします。次の中から最もあなたの考えに近いもの一つに○をつけてください。

1	自分自身の問題としてその解決のために努力したいと思う	159	19.8%
2	同和地区の人々の気持ちや立場をもっと理解したいと思う	161	20.1%
3	自分自身の問題としてとらえられず、同和問題の解決には消極的だと思う	147	18.3%
4	立場上取り組んでいるだけだと思う	50	6.2%
5	自分は差別意識を持っていないので、自分には関係ない問題だと思う	180	22.4%
6	同和問題は同和地区の人たちの問題だから、自分とは関係ない問題だと思う	10	1.2%
7	その他	53	6.6%
	無回答	42	5.2%
	計	802	100.0%



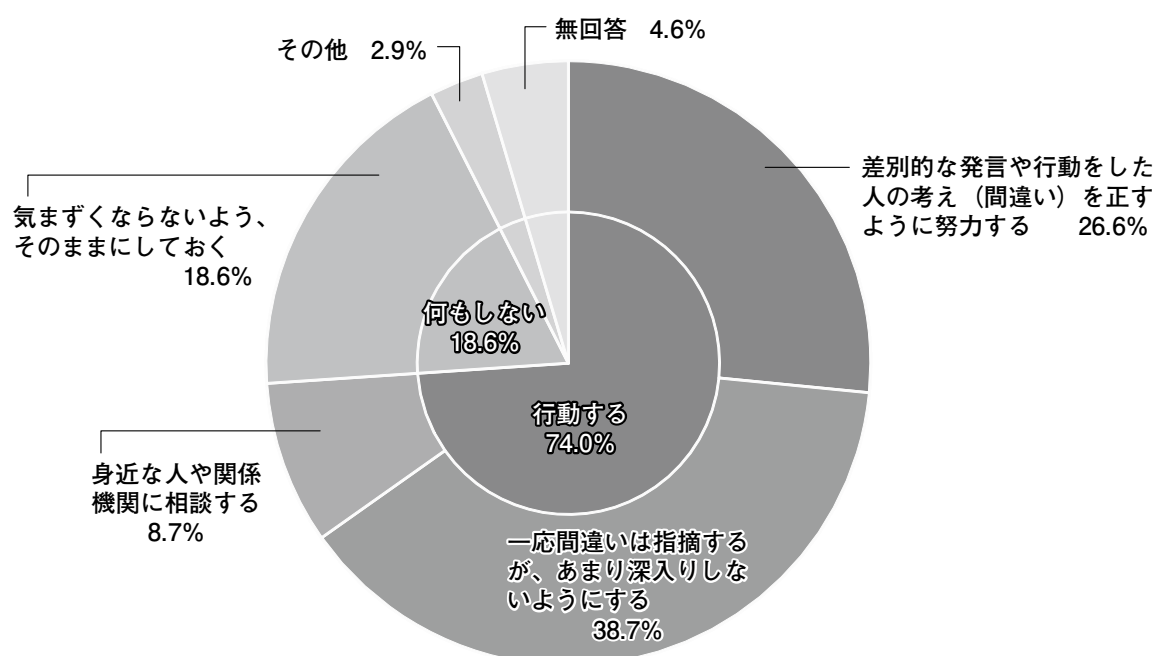
○ 同和問題と自分とのかかわりについては「自分自身の問題としてその解決のために努力したいと思う」(19.8%)、「同和地区の人々の気持ちや立場をもっと理解したい」(20.1%)を合わせ39.9%の人が自分自身の問題としてとらえ理解したいと捉えている。一方、「自分は差別意識を持っていないので、自分には関係ない問題だと思う」(22.4%)、「同和問題は同和地区の人たちの問題だから、自分とは関係ない問題だと思う」(1.2%)を合わせると23.6%の人が自分には関係ない問題だと思っている。さらに「自分自身の問題としてとらえられず、同和問題の解決には消極的だと思う」(18.3%)、「立場上取り組んでいるだけだと思う」(6.2%)を加えると48.1%の人が消極的、傍観的な姿勢態度といえる。「自身との関わり」として考えると「消極的な人」の割合が48.1%と約半数を占めており、「積極的な人」の割合より多くなっている。

前回(平成11年度)の数値では、「積極的な人」の割合が43.3%、「消極的な人」の割合が46.1%となっている。

差別行為への対応について

質問15 あなたの周りや親しい人との間で、同和地区の人々に対する差別的な発言や行為を直接見聞きした場合どうされますか。次の中からあてはまるもの一つに○をつけてください。

1	差別的な発言や行動をした人の考え（間違い）を正すように努力する	213	26.6%
2	一応間違いは指摘するが、あまり深入りしないようにする	310	38.7%
3	気まずくならないよう、そのままにしておく	149	18.6%
4	身近な人や関係機関に相談する	70	8.7%
5	その他	23	2.9%
	無回答	37	4.6%
	計	802	100.0%



- 差別行為への対応については、「一応間違いは指摘するが、あまり深入りしないようにする」が38.7%で最も高く、次いで「差別的な発言や行動をした人の考え（間違い）を正すように努力する」が26.6%である。「気まずくならないよう、そのままにしておく」は18.6%、「身近な人や関係機関に相談する」は8.7%である。「差別的な発言や行動をした人の考え（間違い）を正すように努力する」、「一応間違いは指摘するが、あまり深入りしないようにする」、「身近な人や関係機関に相談する」を合わせて74.0%の人が差別に気づいたとき、何らかの行動をしている。

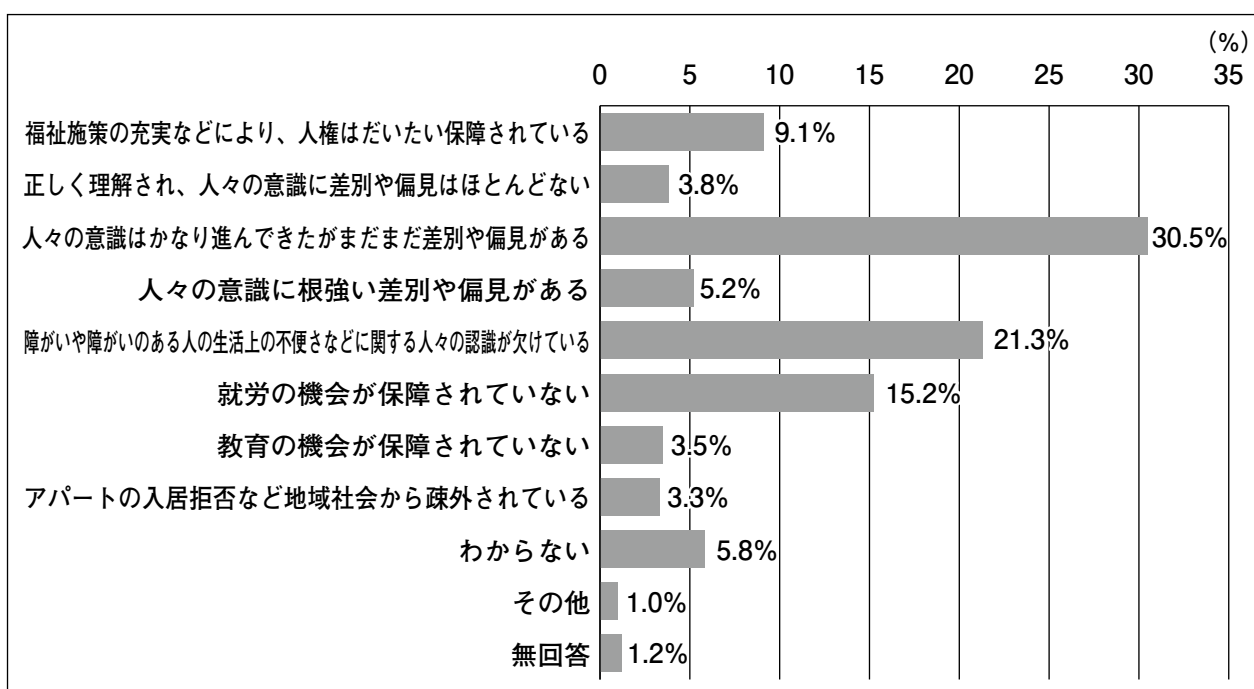
「差別行為」に対しては、7割以上の人々が「積極的に行動する」と回答している。

「同和問題とあなた自身との関わりについて」の回答と比較してみると、「差別行為」に対しては7割以上の人々が「積極的に行動する」が、「自身との関わり」として捉えた場合、約半数の人が「消極的」になるという関係が伺える。

4 障がいのある人の人権について、あなたのお考えをお聞かせください。

質問18 障がいのある人の人権について現在の状況をどのようにお考えですか。あなたの考えに近いものに○をつけてください。(○はいくつでも)

1	福祉施策の充実などにより、人権はだいたい保障されている	134	9.1%
2	正しく理解され、人々の意識に差別や偏見はほとんどない	56	3.8%
3	人々の意識はかなり進んできたがまだまだ差別や偏見がある	447	30.5%
4	人々の意識に根強い差別や偏見がある	76	5.2%
5	障がいや障がいのある人の生活上の不便さなどに関する人々の認識が欠けている	312	21.3%
6	就労の機会が保障されていない	222	15.2%
7	教育の機会が保障されていない	52	3.5%
8	アパートの入居拒否など地域社会から疎外されている	49	3.3%
9	わからない	85	5.8%
10	その他	14	1.0%
	無回答	18	1.2%
	計	1465	100.0%

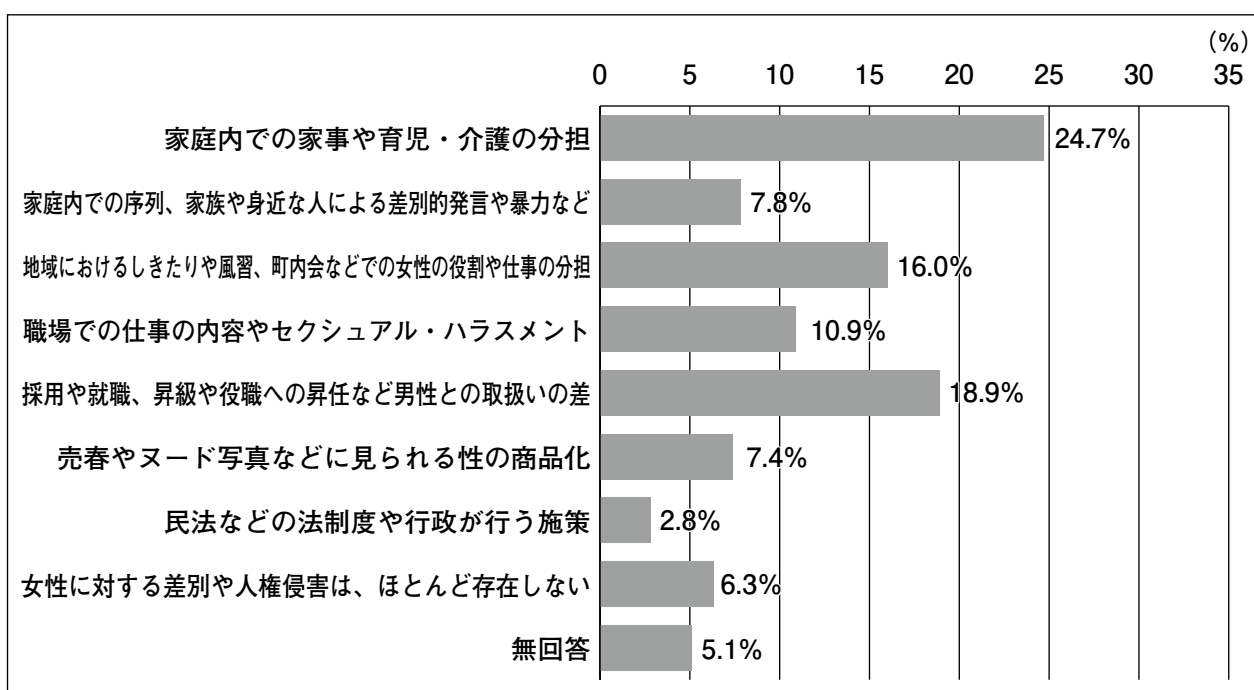


○ 最も高いのは「人々の意識はかなり進んできたがまだまだ差別や偏見がある」(30.5%)で、次いで「障がいや障がいのある人の生活上の不便さなどに関する人々の認識が欠けている」(21.3%)、「就労の機会が保障されていない」(15.2%)の順で、「人々の意識に根強い差別や偏見がある」(5.2%)、「教育の機会が保障されていない」(3.5%)、「アパートの入居拒否など地域社会から疎外されている」(3.3%)を加えると79%の人が差別や偏見があり、人々の認識が欠けているなど課題があると回答している。一方、「福祉施設の充実などにより人権はだいたい保障されている」(9.1%)、「正しく理解され、人々の意識に差別や偏見はほとんどない」(3.8%)と回答した人は合わせて12.9%であった。なお「わからない」と回答した人が5.8%ある。

5 女性の人権について、あなたのお考えをお聞かせください。

質問22 どのような場面で、女性が差別や人権侵害を受けていると思いますか。次の中からあなたの考えにあてはまるものに○をつけてください。(○は3つ以内)

1	家庭内での家事や育児・介護の分担	359	24.7%
2	家庭内での序列、家族や身近な人による差別的発言や暴力など	114	7.8%
3	地域におけるしきたりや風習、町内会などでの女性の役割や仕事の分担	232	16.0%
4	職場での仕事の内容やセクシュアル・ハラスメント	159	10.9%
5	採用や就職、昇給や役職への昇任など男性との取扱いの差	274	18.9%
6	売春やヌード写真などに見られる性の商品化	108	7.4%
7	民法などの法制度や行政が行う施策	41	2.8%
8	女性に対する差別や人権侵害は、ほとんど存在しない	92	6.3%
	無回答	74	5.1%
	計	1453	100.0%



- 女性が差別や人権侵害を受けていると思うことは、「家庭内での家事や育児・介護の負担」(24.7%) が最も高く、次いで「採用や就職、昇給や役職への昇任など男性との取扱いの差」(18.9%)、「地域におけるしきたりや風習、町内会などでの女性の役割や仕事の分担」(16.0%) の順になっている。「女性に対する差別や人権侵害は、ほとんど存在しない」が6.3%であった。

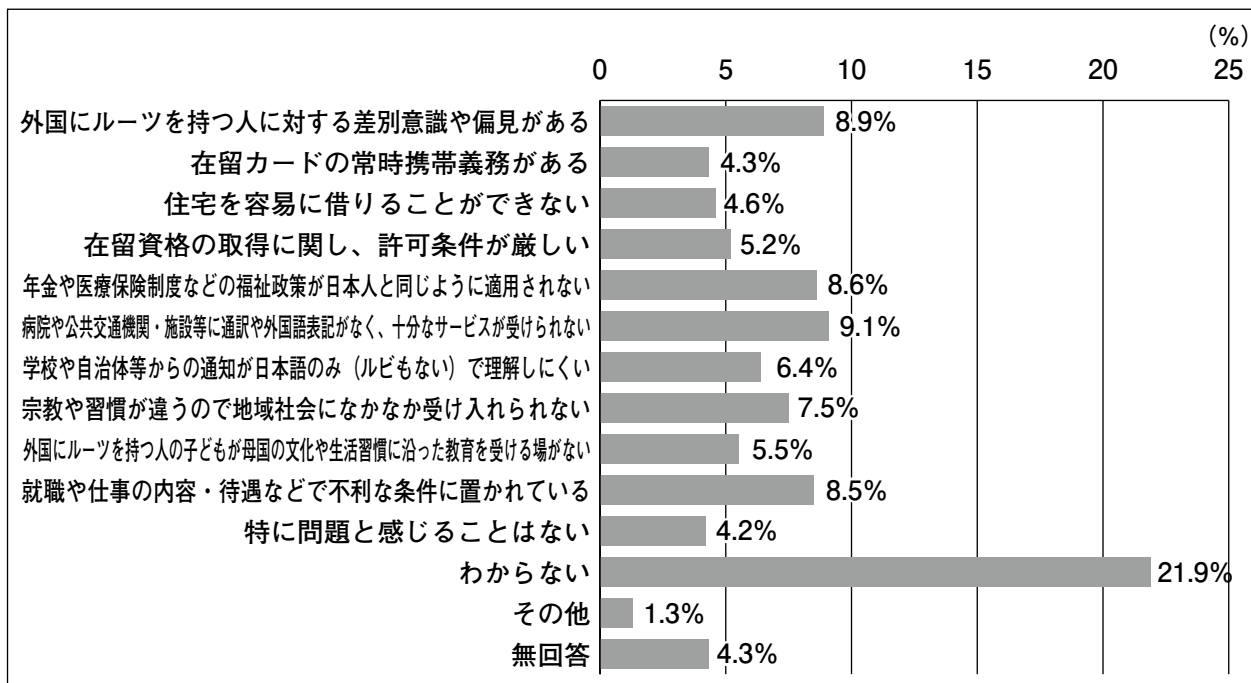
6 外国にルーツを持つ人の人権について、あなたのお考えをお聞かせください。

質問23-① あなたは、日本で暮らす外国にルーツを持つ人にとって、どのようなことが支障になっていると思いますか。次の中からあなたの考えに近いものに○をつけてください。

(○はいくつでも)

* 「外国にルーツを持つ人」…日本に在住する日本国籍を有しない人、又は、両親・祖父母等のいずれかが外国に祖先（ルーツ）を持つ日本国籍を有する人

1	外国にルーツを持つ人に対する差別意識や偏見がある	127	8.9%
2	在留カードの常時携帯義務がある	62	4.3%
3	住宅を容易に借りることができない	66	4.6%
4	在留資格の取得に関し、許可条件が厳しい	74	5.2%
5	年金や医療保険制度などの福祉政策が日本人と同じように適用されない	123	8.6%
6	病院や公共交通機関・施設等に通訳や外国語表記がなく、十分なサービスが受けられない	130	9.1%
7	学校や自治体等からの通知が日本語のみ（ルビもない）で理解しにくい	92	6.4%
8	宗教や習慣が違うので地域社会になかなか受け入れられない	107	7.5%
9	外国にルーツを持つ人の子どもが母国の文化や生活習慣に沿った教育を受ける場がない	79	5.5%
10	就職や仕事の内容・待遇などで不利な条件に置かれている	122	8.5%
11	特に問題と感ずることはない	60	4.2%
12	わからない	314	21.9%
13	その他	18	1.3%
	無回答	61	4.3%
	計	1435	100.0%



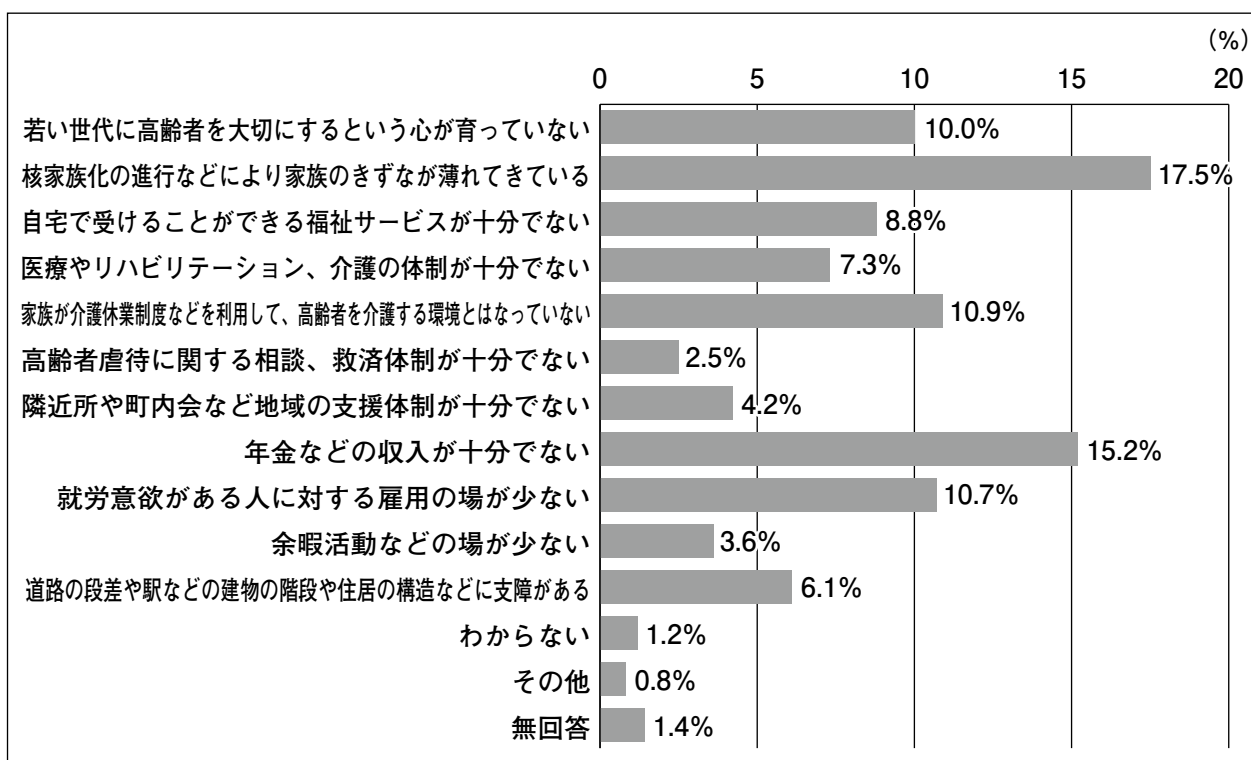
○ 日本で暮らす外国にルーツを持つ人にとって支障になっていることは「病院や公共交通機関・施設等に通訳や外国語表記がなく、十分なサービスが受けられない」(9.1%) が最も高く、次いで「外国にルーツを持つ人に対する差別意識や偏見がある」(8.9%)、「年金や医療保険制度などの福祉政策が日本人と同じように適用されない」(8.6%) の順に高くなっている。なお、「わからない」が21.9%あり、最も高い数値となっている。

8 高齢者の人権について、あなたのお考えをお聞かせください。

質問25 高齢者が暮らしていくうえで、特に支障となったり、問題があると感じられるのはどのようなことですか。次の中からあなたの考えに近いものに○をつけてください。

(○はいくつでも)

1	若い世代に高齢者を大切にするという心が育っていない	224	10.0%
2	核家族化の進行などにより家族のきずなが薄れてきている	392	17.5%
3	自宅で受けることができる福祉サービスが十分でない	198	8.8%
4	医療やリハビリテーション、介護の体制が十分でない	163	7.3%
5	家族が介護休業制度などを利用して、高齢者を介護する環境とはなっていない	245	10.9%
6	高齢者虐待に関する相談、救済体制が十分でない	55	2.5%
7	隣近所や町内会など地域の支援体制が十分でない	94	4.2%
8	年金などの収入が十分でない	340	15.2%
9	就労意欲がある人に対する雇用の場が少ない	241	10.7%
10	余暇活動などの場が少ない	80	3.6%
11	道路の段差や駅などの建物の階段や住居の構造などに支障がある	137	6.1%
12	わからない	26	1.2%
13	その他	17	0.8%
	無回答	32	1.4%
	計	2244	100.0%



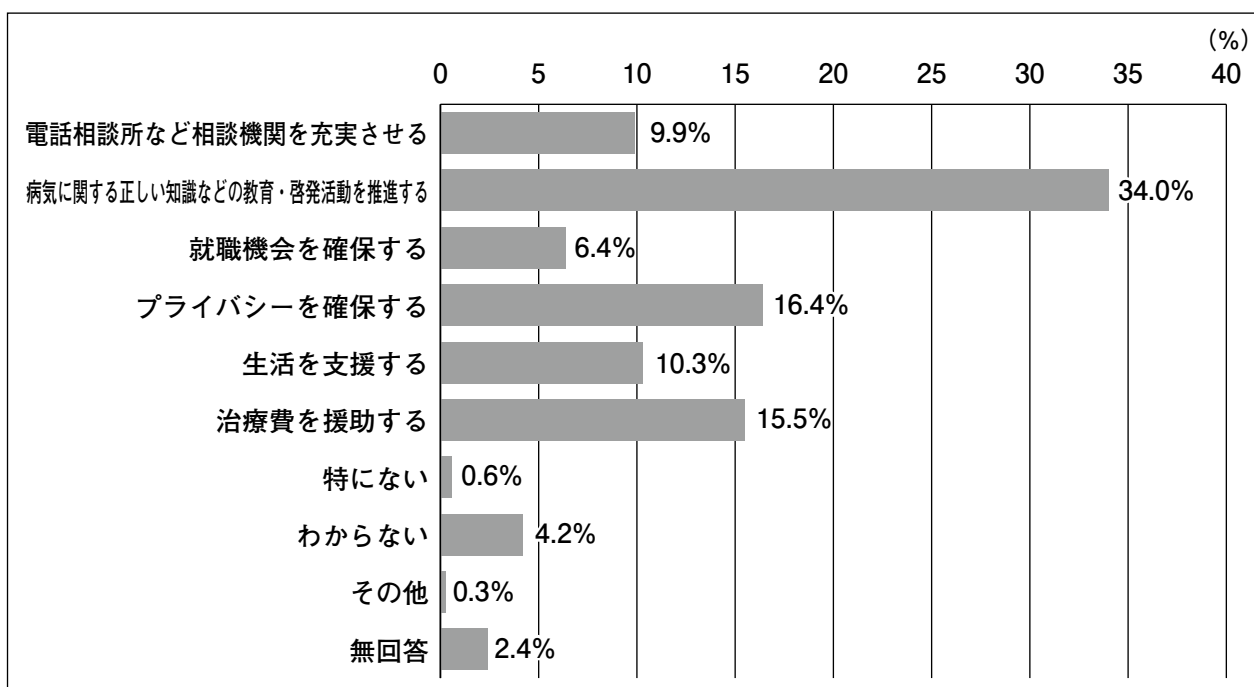
○ 高齢者にとって支障となったり問題があると感じるものは、「核家族化の進行などにより家族のきずなが薄れてきている」(17.5%)が最も高く、次いで「年金などの収入が十分でない」(15.2%)、「家族が介護休業制度などを利用して、高齢者を介護する環境とはなっていない」(10.9%)の順になっている。

9 病気にかかわる人権について、あなたのお考えをお聞かせください。

質問27 あなたは、H I V感染者やハンセン病患者・回復者等の人権を守るために必要なことはどのようなことだと思いますか。次の中から特に重要と思うものに○をつけてください。

(○は3つ以内)

1	電話相談所など相談機関を充実させる	154	9.9%
2	病気に関する正しい知識などの教育・啓発活動を推進する	530	34.0%
3	就職機会を確保する	99	6.4%
4	プライバシーを確保する	256	16.4%
5	生活を支援する	160	10.3%
6	治療費を援助する	241	15.5%
7	特にない	10	0.6%
8	わからない	66	4.2%
9	その他	4	0.3%
	無回答	37	2.4%
	計	1557	100.0%

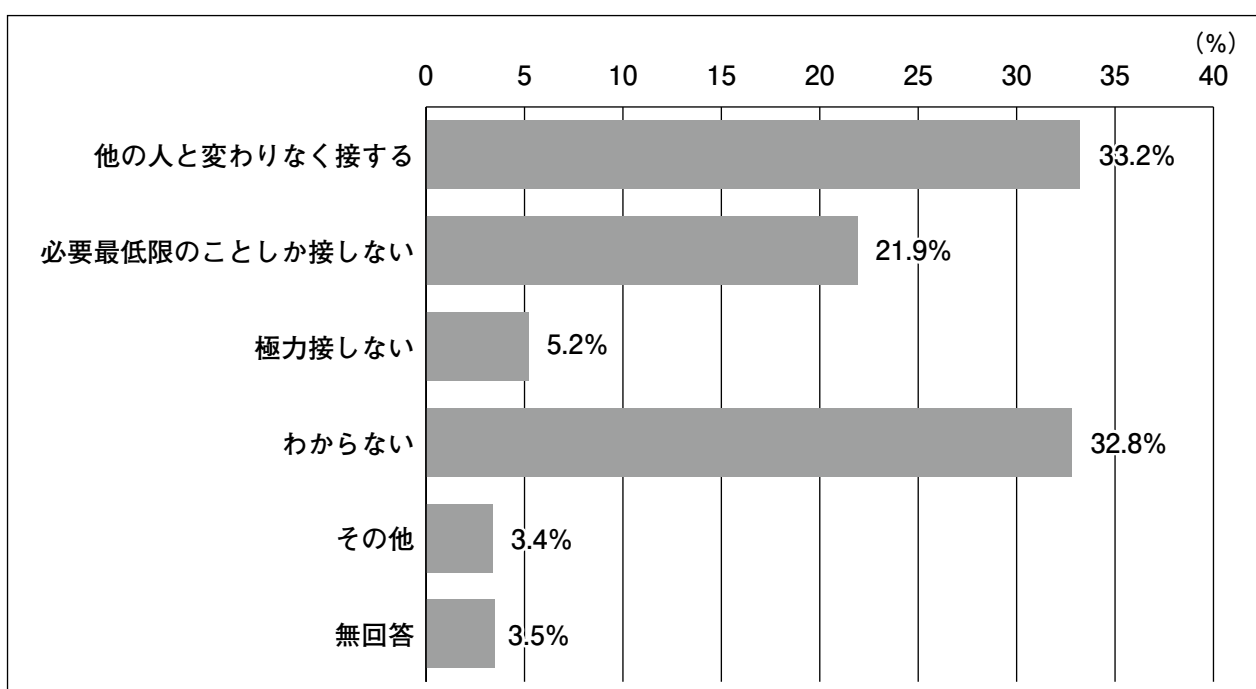


○ HIV感染者やハンセン病患者・回復者等の人権が守られるために必要と思うことは「病気に関する正しい知識などの教育・啓発活動を推進する」(34.0%)が最も高く、次いで「プライバシーを確保する」(16.4%)、「治療費を援助する」(15.5%)が高くなっている。

10 刑を終えて出所した人の人権について、あなたのお考えをお聞かせください。

質問28 刑を終えて出所した人と、あなたの職場や地域社会で接する機会が生じた場合、あなたはどのような気持ちを持たれますか。次の中から一つに○をつけてください。

1	他の人と変わりなく接する	266	33.2%
2	必要最低限のことしか接しない	176	21.9%
3	極力接しない	42	5.2%
4	わからない	263	32.8%
5	その他	27	3.4%
	無回答	28	3.5%
	計	802	100.0%



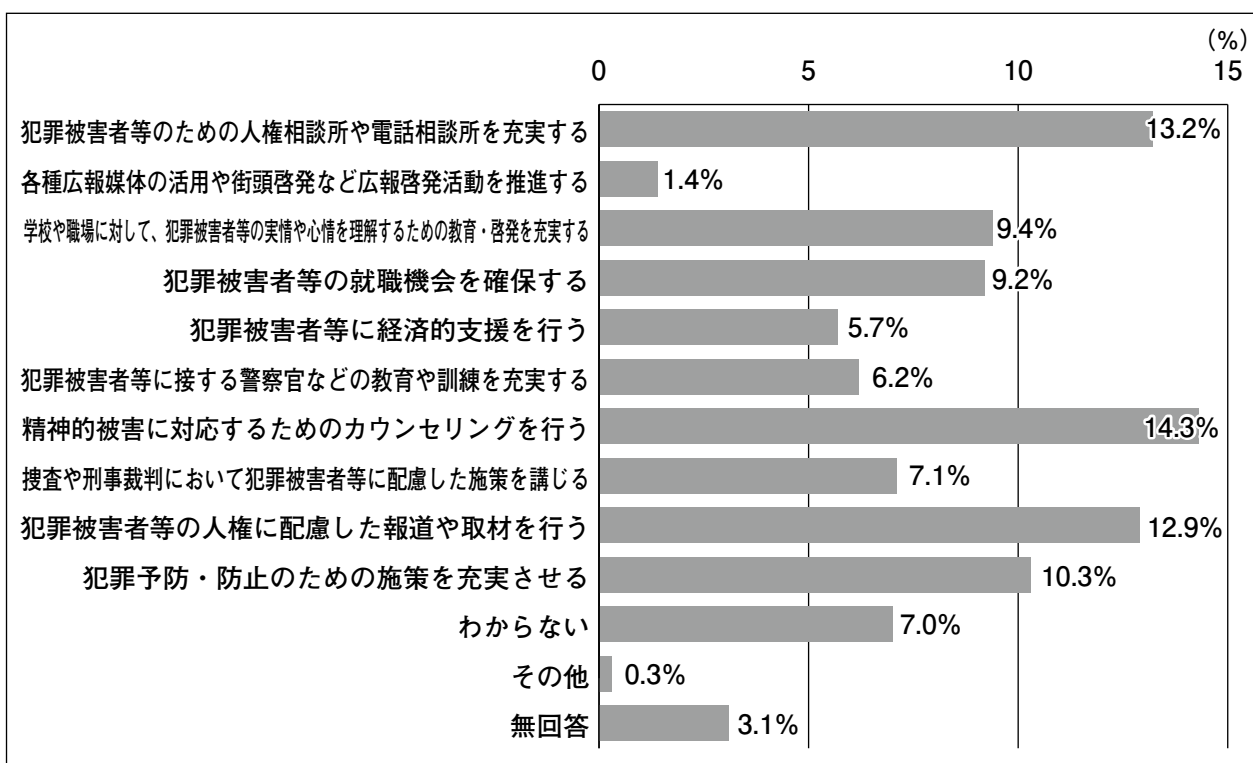
○ 刑を終えて出所した人と接する気持ちについては「他の人と変わりなく接する」(33.2%)が最も高く、次いで「必要最低限のことしか接しない」(21.9%)が高い。なお、「わからない」(32.8%)が2番目に高くなっている。

11 犯罪被害者等の人権について、あなたのお考えをお聞かせください。

質問29 あなたは、犯罪被害者等（犯罪被害者とその家族）の人権を守るために必要なことは、どのようなことだと思いますか。次の中から特に重要と思うものに○をつけてください。

(○は3つ以内)

1	犯罪被害者等のための人権相談所や電話相談所を充実する	220	13.2%
2	各種広報媒体の活用や街頭啓発など広報啓発活動を推進する	23	1.4%
3	学校や職場に対して、犯罪被害者等の実情や心情を理解するための教育・啓発を充実する	157	9.4%
4	犯罪被害者等の就職機会を確保する	154	9.2%
5	犯罪被害者等に経済的支援を行う	95	5.7%
6	犯罪被害者等に接する警察官などの教育や訓練を充実する	103	6.2%
7	精神的被害に対応するためのカウンセリングを行う	238	14.3%
8	捜査や刑事裁判において犯罪被害者等に配慮した施策を講じる	118	7.1%
9	犯罪被害者等の人権に配慮した報道や取材を行う	216	12.9%
10	犯罪予防・防止のための施策を充実させる	172	10.3%
11	わからない	117	7.0%
12	その他	5	0.3%
	無回答	51	3.1%
	計	1669	100.0%



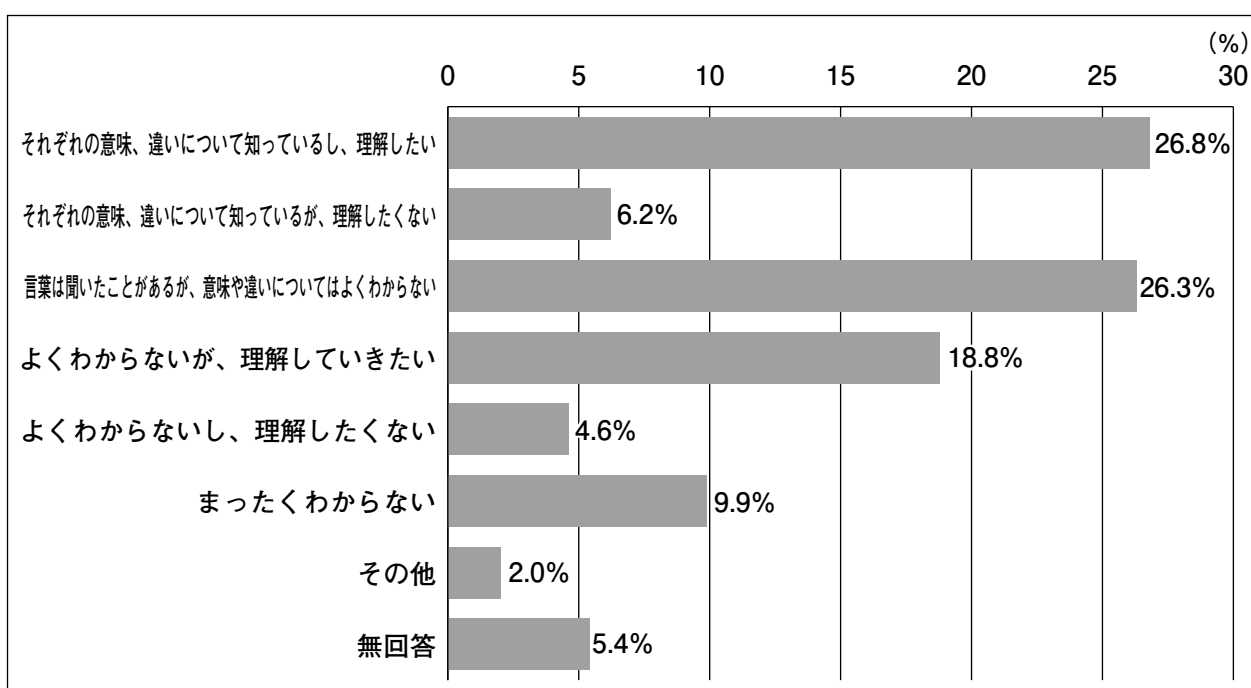
○ 犯罪被害者等の人権を守るために必要と思うことは「精神的被害に対応するためのカウンセリングを行う」(14.3%) が最も高く、次いで「犯罪被害者等のための人権相談所や電話相談所を充実する」(13.2%)、「犯罪被害者等の人権に配慮した報道や取材を行う」(12.9%) の順で高くなっている。なお、「わからない」も7.0%ある。

12 性的マイノリティの人権について、あなたのお考えをお聞かせください。

質問30 あなたは、性的マイノリティの意味やそうでない人との違いを知っていますか。次の中からあてはまるもの一つに○をつけてください。

*性的マイノリティ…性同一性障がい、異性装者、同性愛者、両性愛者など

1	それぞれの意味、違いについて知っているし、理解したい	215	26.8%
2	それぞれの意味、違いについて知っているが、理解したくない	50	6.2%
3	言葉は聞いたことがあるが、意味や違いについてはよくわからない	211	26.3%
4	よくわからないが、理解していききたい	151	18.8%
5	よくわからないし、理解したくない	37	4.6%
6	まったくわからない	79	9.9%
7	その他	16	2.0%
	無回答	43	5.4%
	計	802	100.0%

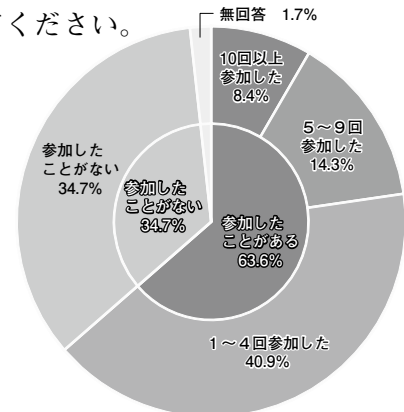


○ 性的マイノリティの意味や違いについては、「それぞれの意味、違いについて知っているし、理解したい」(26.8%)が最も高い。次いで「言葉は聞いたことがあるが、意味や違いについてはよくわからない」(26.3%)、「よくわからないが、理解していききたい」(18.8%)の順になっている。「理解したい」と「理解していききたい」を合わせて45.6%、「理解したくない」は10.8%、「よくわからない」「まったくわからない」は36.2%、「無回答」は5.4%である。

学習機会について

質問 8-① あなたは、過去5年間のうちに人権問題に関する学習会や講演会・研修会に参加されたことがありますか。あてはまるもの一つに○をつけてください。

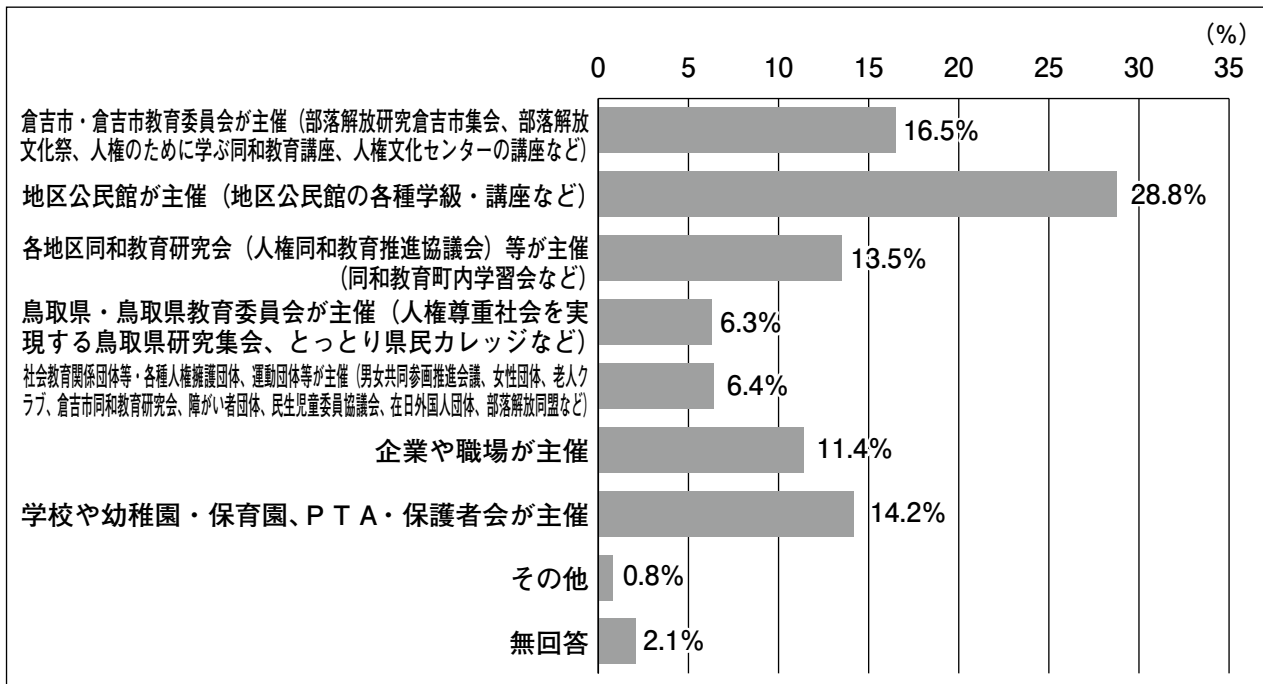
1	10回以上参加した	67	8.4%
2	5～9回参加した	115	14.3%
3	1～4回参加した	328	40.9%
4	参加したことがない	278	34.7%
	無回答	14	1.7%
	計	802	100.0%



○ 過去5年間に人権問題に関する研修会等に参加したことがある人は63.6%あり、全体の半数以上を占めている。

質問 8-② 質問 8-①で1～3を選択された方にお聞きします。あなたが参加された講演会・研修会等を主催していたのはどこですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

1	倉吉市・倉吉市教育委員会が主催（部落解放研究倉吉市集会、部落解放文化祭、人権のために学ぶ同和教育講座、人権文化センターの講座など）	157	16.5%
2	地区公民館が主催（地区公民館の各種学級・講座など）	275	28.8%
3	各地区同和教育研究会（人権同和教育推進協議会）等が主催（同和教育町内学習会など）	129	13.5%
4	鳥取県・鳥取県教育委員会が主催（人権尊重社会を実現する鳥取県研究集会、とっとり県民カレッジなど）	60	6.3%
5	社会教育関係団体等・各種人権擁護団体、運動団体等が主催（男女共同参画推進会議、女性団体、老人クラブ、倉吉市同和教育研究会、障がい者団体、民生児童委員協議会、在日外国人団体、部落解放同盟など）	61	6.4%
6	企業や職場が主催	109	11.4%
7	学校や幼稚園・保育園、PTA・保護者が主催	135	14.2%
8	その他	8	0.8%
	無回答	20	2.1%
	計	954	100.0%

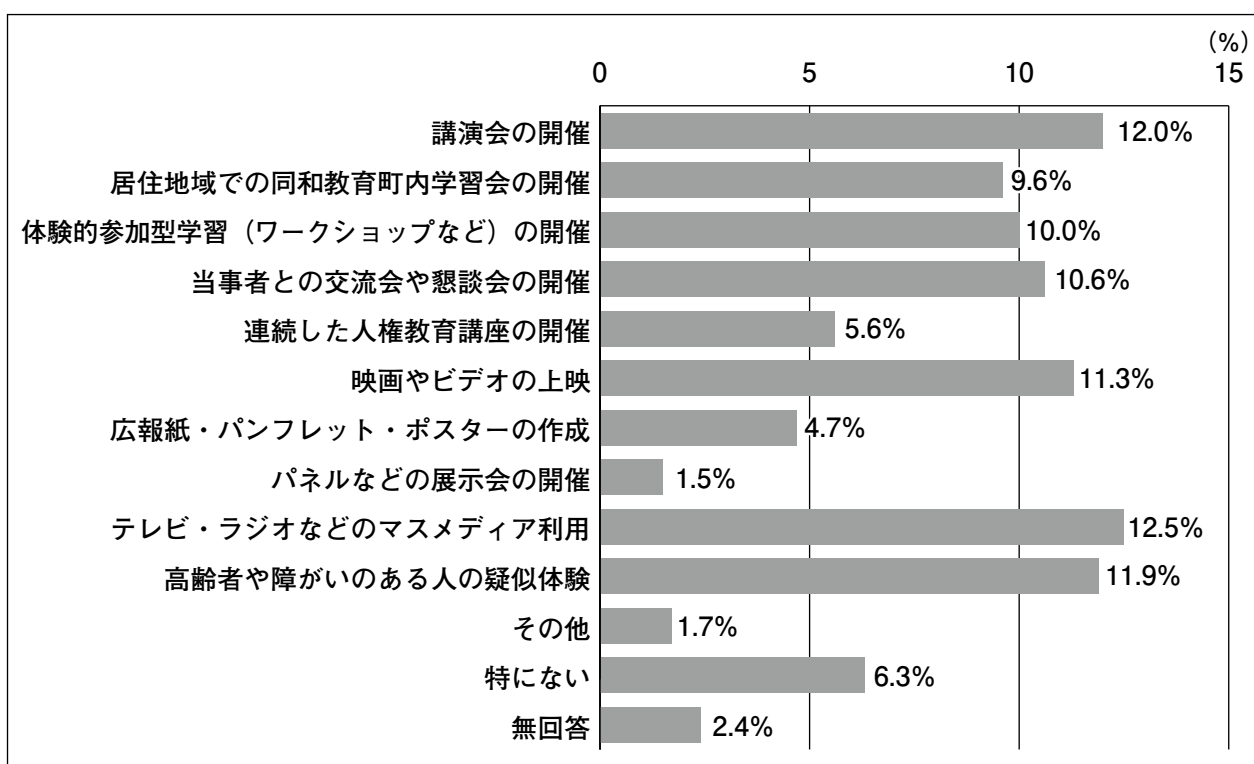


○ 参加した研修会等の主催で最も高い割合の回答は、「地区公民館が主催」(28.8%)が最も高い。次いで「倉吉市・倉吉市教育委員会が主催」(16.5%)、「学校や幼稚園・保育園、PTA・保護者が主催」(14.2%)、「各地区同和教育研究会が主催」(13.5%)、「企業や職場が主催」(11.4%)の順に高い。

学習方法や啓発活動について

質問9 同和問題をはじめさまざまな人権問題について理解を深めるために、あなたはどのような学習方法や啓発活動が重要だと思いますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

1	講演会の開催	206	12.0%
2	居住地での同和教育町内学習会の開催	164	9.6%
3	体験的参加型学習（ワークショップなど）の開催	172	10.0%
4	当事者との交流会や懇談会の開催	182	10.6%
5	連続した人権教育講座の開催	96	5.6%
6	映画やビデオの上映	194	11.3%
7	広報紙・パンフレット・ポスターの作成	80	4.7%
8	パネルなどの展示会の開催	26	1.5%
9	テレビ・ラジオなどのマスメディア利用	214	12.5%
10	高齢者や障がいのある人の疑似体験	204	11.9%
11	その他	30	1.7%
12	特にない	108	6.3%
	無回答	41	2.4%
	計	1717	100.0%

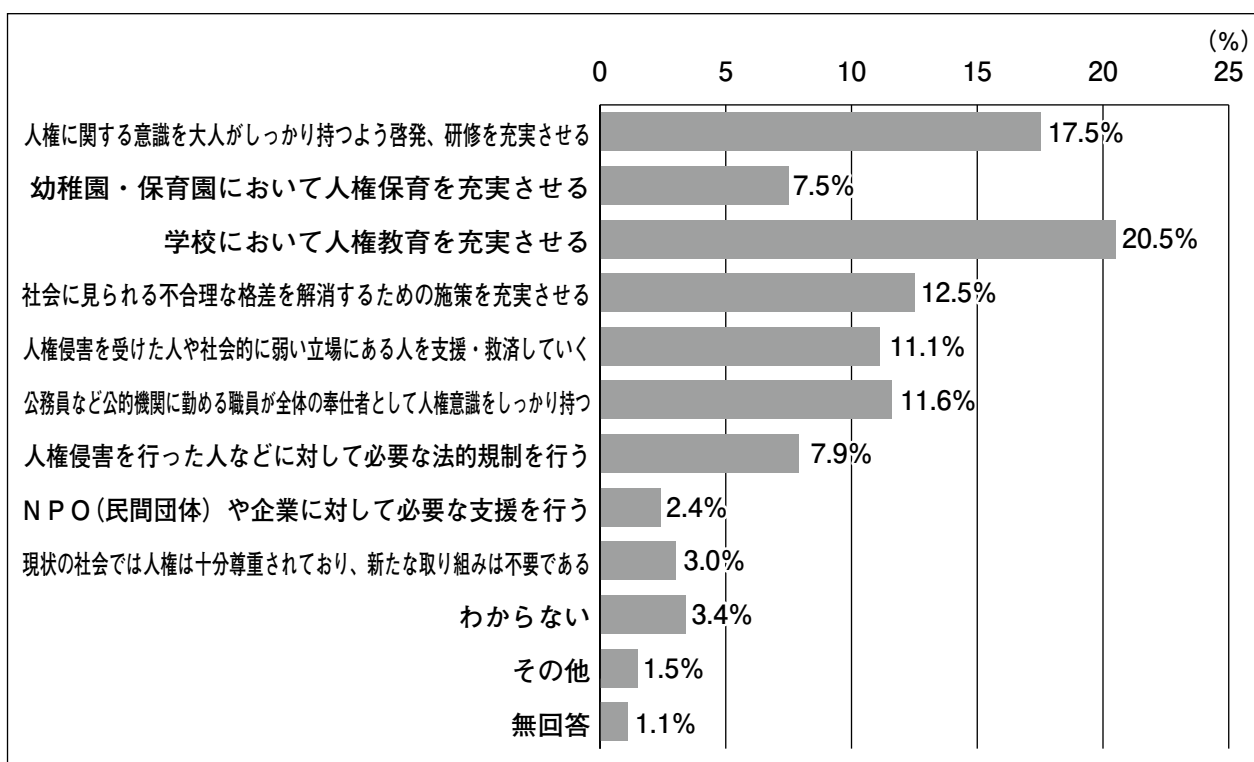


○ 人権問題について理解を深めるために重要な学習方法や啓発活動は、「テレビ・ラジオなどのマスメディア利用」(12.5%)、「講演会の開催」(12.0%)、「高齢者や障がい者の疑似体験」(11.9%)、「映画やビデオの上映」(11.3%) などが高い。

行政施策について

質問7 人権が尊重される社会を実現するためには、行政の施策としてどのような取り組みが必要だと思いますか。次の中からあなたの考えに近いものに○をつけてください。(○は3つ以内)

1	人権に関する意識を大人がしっかり持つよう啓発、研修を充実させる	302	17.5%
2	幼稚園・保育園において人権保育を充実させる	129	7.5%
3	学校において人権教育を充実させる	353	20.5%
4	社会に見られる不合理な格差を解消するための施策を充実させる	215	12.5%
5	人権侵害を受けた人や社会的に弱い立場にある人を支援・救済していく	192	11.1%
6	公務員など公的機関に勤める職員が全体の奉仕者として人権意識をしっかり持つ	200	11.6%
7	人権侵害を行った人などに対して必要な法的規制を行う	136	7.9%
8	NPO（民間団体）や企業に対して必要な支援を行う	41	2.4%
9	現状の社会では人権は十分尊重されており、新たな取り組みは不要である	52	3.0%
10	わからない	58	3.4%
11	その他	25	1.5%
	無回答	19	1.1%
	計	1722	100.0%



○ 人権が尊重される社会を実現するため必要な行政の施策は、「学校において人権教育を充実させる」(20.5%)が最も高く、次いで「人権に関する意識を大人がしっかり持つよう啓発、研修を充実させる」(17.5%)、「社会に見られる不合理な格差を解消するための施策を充実させる」(12.5%)、「公務員など公的機関に勤める職員が全体の奉仕者として人権意識をしっかり持つ」(11.6%)、「人権侵害を受けた人や社会的に弱い立場にある人を支援・救済していく」(11.1%)の順に高い。

【お問い合わせ先】

倉吉市企画振興部人権局人権政策課

〒682-8611 鳥取県倉吉市葵町722番地

TEL：0858-22-8130

FAX：0858-22-8135

E-mail：jinkenseisaku@city.kurayoshi.lg.jp

平成25年3月 発行